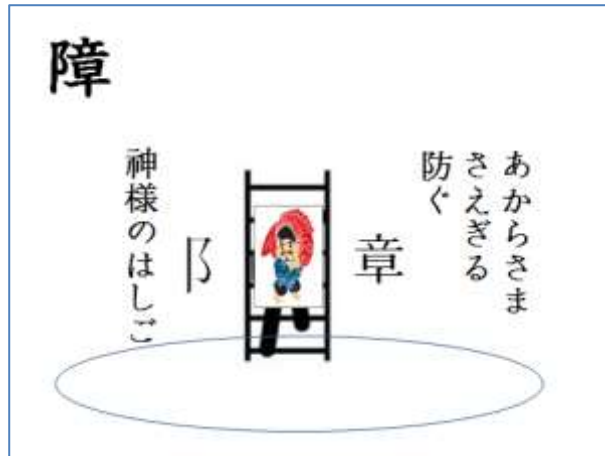


ダウン症フォーラムに寄せて ～ふれジョブという活動の芯にあるもの～

- ① 「こごとへん」には「神様のはしご」という意味が、「章」には「あからさまになる・さえぎる・防ぐ」という意味が、あります。(白川静「字統」より)



日々、私たちが驚かせるような痛ましい出来事に触れるにつけ、いよいよ、さまざまなコトが「あからさま」になってくる時代に入ったように思えます。

経済性・効率性のみを追求した競争社会。生きづらさを抱え、孤独に苦しみながら生きているいのちがなんと多いことでしょうか。

近代文明の負の側面を抱えて、この峠の時代を越えるためには、次を生きる新しい価値が必要です。

障がいのある子どもとの1時間のふれジョブ(真仕事)は、「人が人らしくあるということはどういうことか」を考えさせ、人が生き物としての道を踏み外さないよう、遮り防いでくれているように思えます。

地域に育てられることで、さらに宝となる私たちの大切な子どもたち。種蒔く子どもたち。

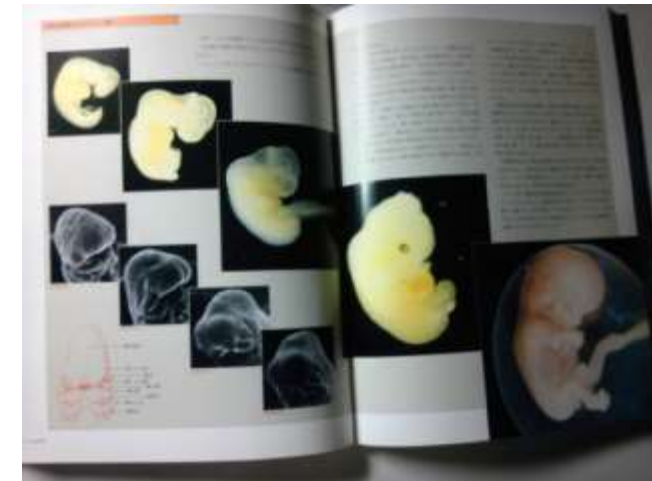
どうか、そのまま、希望の種を蒔いてください。



- ② イザナギノミコ・イザナミノミコの日本初めの神様の第一子は「ヒルコ」。足の萎えた子どもであった、と「古事記」に記述されています。そのヒルコを川に流し下流で拾った地域の人々が「ヒルコ」を育てます。その子がたくさんの宝を地域にもたらして「氾びす」になったという神話です。ふれジョブでも、保護者は障がいのある我が子を地域の人々に託します。心配だなあと思いつつ、それでもジョブサポーターさんと企業さんを信じて託します。やがて定例会で我が子がどんどん地域の宝になっていく過程を見ることになります。小さな声のもの、か弱く脆そうに思えるもの、うつろうもの、…こうした日本的で美しいものこそ、つなぐ力、人と人とのあいだにはたらく力になる。そして保護者は次の保護者の希望に、子どもたちは次の子どもたちの希望に、今の世代は次の世代の土になっていきます。かかわる人々・空気を共に吸う人は「人が人らしくあるとはどういうことだろうか？」と考えはじめます。我が子の成長を他人が自分事のように喜んでくれるのを見続けているうちに、どの人のことも自分のコトのように感じはじめ、かつて人と人がつながって生きていた「いのち本来のありかた」が見えてきます。定例会にありがたい気持ちが満ちてくると、地域の風景も本来の姿に戻るようです。

昨日は 防府市で話をはなしをさせていただいた。はじめて ふれジョブの話のなかに「ひとの系統発生の写真(受精後 32 日から39日目)」をいれて話した。話し終わって感想をいただいた。『驚いたけれども、「発生」のはなしとふれジョブがすんなり結びついた』。ふれジョブはいのちをよるこびあう活動 だから いのちの起原のはなしは肝要だと思い、はなし始めている。

出典は、灰谷健次郎さんの本「わたしの出会ったこともたち」を購入した時と同じ年1990年に買った本、「NHK」サイエンススペシャル 驚異の小宇宙 人体 1生命誕生 NHK 取材班 日本放送協会」から。



生命の記憶がよみがえる一週間

胚子、それは受精後2か月までの胎児の呼び名である。この時期に重要な器官のほとんどができ、形づくりが完了するのだ。そして、この形づくりのクライマックスは受精後32日目からの一週間である。まさに生命の記憶と呼べる出来事がこの一週間のあいだに起こる。原初の生命誕生、魚の時代、両生類の時代、は虫類の時代、そして原始哺乳類の時代、それぞれの時代の記憶が、からだのなかに取り込まれ一つ一つの細胞のなかに巧みに蓄えられながら、えんえんと受け継がれてきたことがよくわかる。…(以上 抜粋)

別の本「胎児の世界」には「つわりは水の中から陸地へ上がる時 つまり 34 日目に始まると三木成夫先生は観察されていた。(たぶんこの NHK の本も先生の仕事の産物なのだろう。) 親子が共に上陸という大きな挑戦をした証しなのだ。だからどのいのちも完璧ではないはずがないのだ。こんなにも気高く、力強く、意志を持って生まれてくる、それは誇りのかたまりだ。どのいのちに対しても敬意を払わずにはおれない。そして、障がいがあって乗り越えて生まれてきたいのちは、なおさら大きなお役目があり、また大きなお役目を持って生まれてくれたようにかたち作らなければならない。

歴史を見れば、長く続いた文明は、みんなでその形を作った痕跡を残している。今という時代は、弱者を作り出すことで勝者となる社会。それは長くつづく豊かな文明にはならないし、少子高齢化に対応する成熟した社会に決してつながらない。

いま、もう一度 このいのちの始まりに戻ってみる時ではないか。

ことばを紡ぎ合い、肌の温もりを交わしあい、睦み合って生まれるいのちのこと。

これらの長い長い生命の過程を経ない、いのちの誕生もはじまっている今、科学の進歩と倫理が、また市場勝利主義に飲み込まれそうな今、考えることが必要だ。 … (以上 抜粋)

いま、いのちが操作される時代、「ひとがひとらしくある」ということはどういうことかを日常にして考えなければと思う。そういう時代に、障がいのある子どもの真仕事はかけがえのない仕事であると思う。